

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	Ammonium Persulfate
カタログ番号	1610700, 1610754, 1610702, 1610700EDU
CAS番号	7727-54-0

安全データシートの供給者の詳細

本社 Bio-Rad Laboratories Inc. 1000 Alfred Nobel Drive Hercules, CA 94547 USA	製造者 Bio-Rad Laboratories, Life Science Group 2000 Alfred Nobel Drive Hercules, California 94547 USA	日本法人/連絡先住所 140-0002 東京都品川区東品川2-2-24 天王洲セントラルタワー20F バイオ・ラッド ラボラトリーズ 株式会社
---	--	--

テクニカルサービス	03-6404-0331 life_ps.jp@bio-rad.com
緊急連絡電話番号	CHEMTREC (ケムトレック):81-345209637

化学品の推奨用途及び使用上の制限

推奨用途	試験研究用試薬
使用上の制限	情報なし

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

酸化性固体	区分 3
急性毒性(経口)	区分 4
急性毒性(経皮)	区分に該当しない
急性毒性(吸入) - ガス	区分に該当しない
急性毒性(吸入) - 蒸気	分類できない
急性毒性(吸入) - 粉じん/ミスト	区分 4
皮膚腐食性/刺激性	区分 1
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分 1
呼吸器感作性	区分 1
皮膚感作性	区分 1
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	分類できない
生殖毒性	分類できない
授乳に対する又は授乳を介した影響	授乳に対する又は授乳を介した影響はない
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分 2、区分 3
区分 2 中枢神経系。	
区分 3 標的臓器影響: 気道刺激性、麻酔作用。	
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分 2
区分 2 呼吸器。	
誤えん有害性	分類できない
水生環境有害性 短期(急性)	区分 3
水生環境有害性 長期(慢性)	区分 3
オゾン層への有害性	分類できない

ラベル要素

**注意喚起語**

危険

危険有害性情報

飲み込むと有害

吸入すると有害

重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷

吸入するとアレルギー、ぜん(喘)息又は呼吸困難を起こすおそれ

アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

臓器の障害のおそれ

呼吸器への刺激のおそれ

眠気又はめまいのおそれ

長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ

長期継続的影響によって水生生物に有害

火災助長のおそれ; 酸化性物質

以下の臓器の障害のおそれ: 中枢神経系。

長期にわたる、又は反復ばく露による以下の臓器の障害のおそれ: 呼吸器。

注意書き**安全対策**

- ・ 取扱後は顔、手、露出した皮膚をよく洗うこと
- ・ この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと
- ・ 屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること
- ・ 保護手袋／保護衣及び眼／顔面保護具を着用すること
- ・ 【換気が不十分な場合】呼吸用保護具を着用すること
- ・ 環境への放出を避けること
- ・ 衣類及び可燃物から遠ざけること／遠ざけて保管すること
- ・ 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙

応急措置

- ・ 飲み込んだ場合: 気分が悪いときは医師に連絡すること
- ・ 口をすすぐこと
- ・ 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること
- ・ 気分が悪いときは医師に連絡すること
- ・ 皮膚(又は髪)に付着した場合: 直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと。皮膚を水【又はシャワー】で洗うこと
- ・ 直ちに医師に連絡すること
- ・ 直ちに医師に連絡すること
- ・ 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること
- ・ 皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合: 医師の診察／手当てを受けること
- ・ 火災の場合: 消火するために水スプレーを使用すること
- ・ 無理に吐かせないこと

保管

- ・ 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと

廃棄

- ・ 内容物／容器を適用される現地、地域、国、及び国際規則に従って廃棄すること

他の危険有害性

該当しない。

3. 組成及び成分情報**化学物質・混合物の区別**

CAS番号

化学物質

7727-54-0

化学名又は一般名	CAS番号	重量%	化審法インベントリ	化審法番号	安衛法インベントリ	安衛法番号
ペルオキシ二硫酸アンモニウム	7727-54-0	50 - 100	既存	(1)-406	既存	(1)-406

化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)

変換係数のデータが無い場合は係数は1として算出

化学名又は一般名	政令名称	金属、CN、F、その他	変換係数	含有率 %	区分	政令番号	管理番号
*	ペルオキシ二硫酸の水溶性塩			100	第1種指定化学物質	1-445	395

* 政令名称を参照

労働安全衛生法
通知対象物質
該当しない

表示対象物質
該当しない

毒物及び劇物取締法
該当しない

4. 応急措置

一般的なアドバイス	治療を行う医師にこのSDSを示すこと。直ちに医師の手当てを受ける必要がある。
吸入した場合	空気の新鮮な場所に移すこと。呼吸が停止している場合には、人工呼吸を行うこと。直ちに医師の手当てを受けること。負傷者が本製品を飲み込んだり吸入した場合には口移し法は使わないこと。一方方向付きポケット・マスク又は他の適切な呼吸医療装置を使用して人工呼吸を行うこと。呼吸が困難な場合には、(資格のある者が)酸素吸入を行うこと。遅発性の肺水腫が生じるおそれがある。直ちに医師の診察／手当てを受けること。アレルギー性呼吸器反応を起こすおそれ。皮膚に直接触れないようにすること。口対口の人工呼吸を行う際はバリアを使用すること。
皮膚に付着した場合	衣類にかかった場合：服を脱ぐ前に、直ちに汚染された衣類及び皮膚を多量の水で洗うこと。皮膚に付着した場合：多量の水と石けん(鹸)で洗うこと。汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。直ちに医師の診察／手当てを受けること。アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ。
眼に入った場合	直ちに少なくとも15分間まぶた(瞼)の裏側まで多量の水で洗うこと。洗っている間は眼を大きく広げたままにすること。受傷部をこすらないこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師の診察／手当てを受けること。
飲み込んだ場合	無理に吐かせないこと。口をすすぐこと。意識のない者には、何も口から与えてはならない。直ちに医師の診察／手当てを受けること。アレルギー性反応を起こすおそれ。
急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状	灼熱感。吸入するとアレルギー、ぜん(喘)息又は呼吸困難を起こすおそれ。咳及び／又は喘鳴。掻痒感。発疹。じんま疹。高濃度の蒸気を吸入すると、頭痛、めまい、疲労、吐き気及び嘔吐のような症状を引き起こすおそれがある。呼吸困難。
応急措置をする者の保護に必要な注意事項	医療者に物質の関与を伝え、自身の保護及び汚染の拡大を防止するための措置を講じること。指定された個人用保護具を着用すること。詳細については項目8を参照。皮膚、眼又は衣類との接触を避けること。皮膚に直接触れないようにすること。口対口の人工呼吸を行う際はバリアを使用すること。粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入を避けること。
医師に対する特別な注意事項	この製品は腐食性物質である。胃洗浄の使用又は嘔吐は禁忌である。胃穿孔又は食道穿孔がないか調べること。化学的解毒薬を与えないこと。声門の浮腫により窒息が生じるおそれがある。湿性ラ音、泡状の痰及び高脈圧を伴う著しい血圧低下が発生する場合がある。過敏な人に感作を引き起こすおそれがある。症状に応じて治療すること。

5. 火災時の措置

適切な消火剤	水を使用すること。粉末消火剤を使用しないこと。CO ₂ 又はハロンの効果は限定的である。離れた場所から火災区域を水浸しにすること。リスクを伴わずに行えるのであれば、容器を火災区域から移動させること。鎮火後に十分な時間が経過するまで容器を大量の流水で冷却すること。
使ってはならない消火剤	粉末消火剤。
特有の危険有害性	これらの物質は火災に巻き込まれると火勢を助長する。加熱されたり火災に巻き込まれた

りすると爆発的に分解するものもある。可燃物(木材、紙、油、衣類など)に着火するおそれ。去流水が火災危険有害性又は爆発危険有害性を生じるおそれ。本製品は眼、皮膚、及び粘膜の薬傷を引き起こす。熱分解すると刺激性のガス及び蒸気を放出することがある。製品は感作性物質である、又は感作性物質を含む。吸入により感作を引き起こすことがある。皮膚接触により感作を引き起こすことがある。

特有の消火方法 大規模火災

水噴霧でドラムを冷却すること。
警告：放水では十分な消火の効果が得られない場合がある。

消火活動を行う者の特別な保護具及び 予防措置

消火を行う者は自給式呼吸器及び消火活動用の完全装備を着用しなければならない。個人用保護具を使用すること。積荷が熱にさらされている場合には、積荷又は車両を移動させないこと。酸化剤。可燃物(木材、紙、油、衣類など)に着火するおそれ。リスクを伴わずに行えるのであれば、容器を火災区域から移動させること。最大距離から消火を行うか、無人ホース保持具又はモニタ付ノズルを使用すること。炎に包まれたタンクからは常に離れていること。大火災に対しては無人ホース保持具又はモニタ付ノズルを使用すること。これが不可能な場合には、区域から退避して火が燃えるにまかせること。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急 時措置

十分換気されているか確認すること。皮膚、眼又は衣類との接触を避けること。人員を安全な区域に退避させること。人員を漏出／漏えい(洩)の風上に遠ざけること。全ての着火源を排除すること(近接区域は禁煙とし、裸火、火花又は火炎を排除すること)。適切な保護衣を着用している場合を除き、損傷した容器や漏出物には触らないこと。詳細については項目8を参照。リスクを伴わずに可能ならば漏えい(洩)を止めること。注意！腐食性物質。指定された個人用保護具を着用すること。粉じんの発生を避けること。粉じんを吸入しないこと。

緊急対応を行う者のための保護具

項目8で推奨されている個人用保護具を着用すること。

環境に対する注意事項

水路、下水道、地下室又は密閉空間への侵入を防止すること。地上水又は下水施設に流さないこと。安全に対処できるならば、それ以上の漏えい(洩)又は漏出を防ぐこと。製品が排水路に入らないようにすること。環境中に放出してはならない。表土／下層土に侵入させないようにすること。

封じ込め方法

リスクを伴わずに可能ならば漏えい(洩)を止めること。乾燥した土、乾燥砂又はその他の不燃性物質で覆い、その後プラスチックシートで覆って散乱したり雨に触れるのを最小限にすること。

浄化方法

清潔なシャベルを用いて物質を清潔で乾燥した容器に回収してゆるく蓋をすること。漏出区域から容器を移動させること。区域を多量の水で洗い流すこと。製品が排水路に入らないようにすること。拡散を最小限にするために粉末状の漏出物をプラスチックシート又は防水シートで覆い乾燥状態を維持すること。

二次災害の防止策

汚染された物体及び区域を環境規則に従って十分に浄化すること。

その他の情報

可燃物(木材、紙、油など)を漏出物から遠ざけておくこと。水が容器の中に入らないようにすること。その区域を換気すること。項目7及び項目8に記載されている保護措置を参照すること。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

安全取扱注意事項

個人用保護具を使用すること。皮膚、眼又は衣類との接触を避けること。熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。汚染された衣類及び靴を脱ぐこと。産業衛生安全対策規範に従って取り扱うこと。換気が不十分な場合、適切な呼吸用保護具を着用する。製品の取扱いを閉鎖系内に限定するか適切な排気式換気を設けること。汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。蒸気又はミストを吸い込まないようにすること。

衛生対策

この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。汚染された衣類及び手袋は脱ぎ、再使用する前に内側を含めて洗濯すること。汚染された作業衣は作業場から出さないこと。機器、作業区域及び衣類を定期的にクリーニングすることが推奨される。休憩前及び製品の取扱い直後に手を洗うこと。皮膚、眼又は衣類との接触を避けること。適切な手袋及び眼／顔面保護具を着用する。粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入を避けること。

保管

安全な保管条件

容器を密閉して乾燥した涼しく換気のよい場所に保管すること。適切な表示のある容器に保管すること。可燃性物質の近くには保管しないこと。個別の国内規制に従って保管すること。現地の規則に従って保管すること。子供の手の届かない場所に保管すること。湿気を遮断すること。施錠して保管すること。他の物質から隔離して保管すること。

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度

化学名又は一般名	日本産業衛生学会	労働安全衛生法 作業環境評価基準 - 管理濃度	ACGIH TLV
ペルオキシ二硫酸アンモニウム 7727-54-0	-	-	TWA: 0.1 mg/m ³ Persulfate

生物学的職業性ばく露限界値

この製品は、供給されたままの状態なら、地域独自の規制団体が制定した生物学的制限値が設定された危険有害物質を一切含んでいない。

設備対策

シャワー
洗眼場
換気システム

環境ばく露防止

情報なし。

保護具

呼吸用保護具

通常の使用条件下では保護具は必要ない。ばく露限度を超えるか刺激が生じる場合には、換気及び排気が必要になる。

手の保護具

適切な手袋を着用する。不浸透性手袋。

眼及び／又は顔面の保護具

密封性の高い安全ゴーグル。顔面保護シールド。

皮膚及び身体の保護具

耐薬品性エプロン。防火服／防災服／耐火服を着用すること。適切な保護衣を着用する。長袖の衣類。

9. 物理的及び化学的性質

物理的及び化学的性質に関する情報

外観	結晶	
物理状態	固体	
色	白色	
臭い	無臭	
臭いのしきい値	情報なし	
特性	値	備考・方法
融点／凝固点	160 °C / 320 °F	
沸点又は初留点及び沸点範囲	データなし	情報なし
可燃性	データなし	情報なし
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界		
爆発又は可燃の上限界	データなし	情報なし
爆発又は可燃の下限界	データなし	情報なし
引火点	該当しない	情報なし
蒸発速度	データなし	情報なし
自然発火点	データなし	情報なし
分解温度	データなし	情報なし
pH	1.5	
粘度		
動粘性率	データなし	情報なし
動的粘度	データなし	情報なし
水への溶解度	水に可溶	
溶解度	データなし	情報なし
n-オクタノール／水分分配係数(log値)	データなし	情報なし
蒸気圧	データなし	情報なし

密度及び／又は相対密度

相対密度	1.982	情報なし
相対ガス密度	データなし	情報なし
粒子特性		
粒径	データなし	該当しない
粒径分布	データなし	該当しない

その他の情報

爆発性	情報なし
酸化性	情報なし

10: 安定性及び反応性

反応性	酸化剤。
化学的安定性	火災又は爆発のおそれ：強酸化性物質。
危険有害反応可能性	通常の条件下で安定。
避けるべき条件	熱、炎及び火花。混触危険物質。長期間にわたる空気又は湿気へのばく露。過剰な熱。
混触危険物質	有機物。可燃性物質。炭化水素。酸。塩基。酸化剤。
危険有害な分解生成物	提供された情報に基づき知見なし。
爆発データ	
静電放電に対する感度	あり。
機械的衝撃に対する感度	なし。

11. 有害性情報

急性毒性

毒性の数値尺度 - 製品情報
情報なし

化学名又は一般名	経口LD50	経皮LD50	吸入 LC50
ペルオキシ二硫酸アンモニウム	= 495 mg/kg (Rat)	> 10000 mg/kg (Rabbit)	> 2.95 mg/L (Rat) 4 h

略語及び頭文字

Rat: ラット
Rabbit: ウサギ

症状

発赤、灼熱感、失明を引き起こすおそれがある、咳及び／又は喘鳴、アレルギー性反応の症状には、発疹、掻痒感、腫脹、呼吸困難、手及び足の刺すような痛み、めまい、意識もうろう、胸痛、筋肉痛又は潮紅が含まれる場合がある、掻痒感、発疹、じんま疹、高濃度の蒸気を吸入すると、頭痛、めまい、疲労、吐き気及び嘔吐のような症状を引き起こすおそれがある。

製品情報

経口

この化学物質又は混合物の特定試験データはない 薬傷を引き起こす(成分に基づく)。飲み込むと消化管及び気道の上部に薬傷を引き起こす。暗色血の嘔吐及び下痢を伴う口及び胃内部の重篤な灼熱痛のおそれ。血圧低下のおそれ。口の周囲に褐色がかかった又は黄色がかかった変色が見られる場合がある。喉の腫脹による息切れ及び窒息のおそれ。飲み込むと肺損傷を引き起こすおそれがある。飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ。「吸入」の項目に記載されている追加的影響を生じるおそれ。

吸入

この化学物質又は混合物の特定試験データはない 吸入すると腐食性である(成分に基づく)。腐食性のヒューム／ガスを吸入すると、数時間にわたる咳、窒息、頭痛、めまい及び脱力感のおそれ。胸苦しさ、息切れ、皮膚の青変、血圧低下、及び心拍数の増加を伴う肺水腫のおそれ。吸入された腐食性物質は毒性浮腫を引き起こす可能性がある。肺水腫は生命に危険である可能性がある。過敏な人に感作を引き起こすおそれがある。眠気又はめまいのおそれ。気道刺激を引き起こすおそれ。吸入すると有害。

皮膚接触

この化学物質又は混合物の特定試験データはない 腐食性(成分に基づく)。薬傷を引き起こす。反復又は長期にわたるばく露による皮膚への接触は、敏感な人にアレルギー性反応を生じるおそれがある。皮膚接触により感作を引き起こすことがある。

眼接触	この化学物質又は混合物の特定試験データはない。重篤な眼の損傷(成分に基づく)。眼に対して腐食性であり失明を含む重篤な損傷を生じるおそれがある。眼に対する不可逆な損傷を引き起こすおそれがある。
皮膚腐食性/刺激性	成分に対して利用可能なデータに基づく分類。重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷。
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	成分に対して利用可能なデータに基づく分類。重篤な眼の損傷。薬傷を引き起こす。
呼吸器感受性又は皮膚感受性	吸入するとアレルギー、ぜん(喘)息又は呼吸困難を起こすおそれ。アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ。
生殖細胞変異原性	分類できない。
発がん性	分類できない。
生殖毒性	分類できない。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	国又は地域で採用され、SDSが準拠している世界調和システム(GHS)の分類基準に基づき、この製品は急性のばく露に起因して全身標的臓器毒性を引き起こすと判定されている。飲み込むと臓器の障害のおそれ。呼吸器への刺激のおそれ。眠気又はめまいのおそれ。
以下の臓器の障害のおそれ:	中枢神経系。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ。
長期にわたる、又は反復ばく露による以下の臓器の障害のおそれ:	呼吸器。
誤えん有害性	分類できない。

12. 環境影響情報

生態毒性 長期継続的影響によって水生生物に有害。

化学名又は一般名	藻類/水生植物	魚類	甲殻類
ペルオキシ二硫酸アンモニウム	-	LC50: =103mg/L (96h, <i>Lepomis macrochirus</i>) LC50: =76.3mg/L (96h, <i>Oncorhynchus mykiss</i>) LC50: =323mg/L (96h, <i>Poecilia reticulata</i>)	EC50: =120mg/L (48h, <i>Daphnia magna</i>)

残留性・分解性	情報なし。
生態蓄積性	情報なし。
土壌中の移動性	情報なし。
オゾン層への有害性	分類できない。利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。
他の有害影響	情報なし。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	環境中に放出してはならない。現地の規則に従って廃棄すること。環境法律に従って廃棄物を廃棄すること。
汚染容器及び包装	空容器を再利用しないこと。

14. 輸送上の注意

IMDG

国連番号又はID番号	UN1444
品名(国連輸送名)	AMMONIUM PERSULPHATE
説明	UN1444, AMMONIUM PERSULPHATE, 5.1, III
国連分類(輸送における危険有害性クラス)	5.1
容器等級	III
海洋汚染物質	NP
EmS番号	F-A, S-Q

ADR

国連番号又はID番号	1444
品名(国連輸送名)	AMMONIUM PERSULPHATE
説明	1444, AMMONIUM PERSULPHATE, 5.1, III
国連分類(輸送における危険有害性クラス)	5.1
容器等級	III
ERGコード	5L

IATA

国連番号又はID番号	UN1444
品名(国連輸送名)	Ammonium persulphate
説明	UN1444, Ammonium persulphate, 5.1, III
国連分類(輸送における危険有害性クラス)	5.1
容器等級	III
特別条項	A803

日本

国連番号又はID番号	UN1444
品名(国連輸送名)	AMMONIUM PERSULPHATE
説明	UN1444, AMMONIUM PERSULPHATE, 5.1, III
国連分類(輸送における危険有害性クラス)	5.1
容器等級	III

15. 適用法令

国内規制

化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)
該当する 詳細情報については項目3を参照
労働安全衛生法

危険物
労働安全衛生法施行令別表第1(第6条、第9条の3関係)
酸化性の物
通知対象物質
該当しない
表示対象物質
該当しない

毒物及び劇物取締法

該当しない
消防法:
該当しない
化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律(化審法)
該当しない

船舶安全法

詳細については項目14を参照

航空法

詳細については項目14を参照

海洋汚染及び海上災害の防止に関する法律

該当しない

港則法

詳細については項目14を参照

労働基準法

化学物質により引き起こされる業務上の疾病 - 労働基準法第75条、労働基準法施行規則第35条及び別表第1の2、項目4の1

水質汚濁防止法

水質汚濁防止法第2条及び水質汚濁防止法施行令第2条で定める有害物質

大気汚染防止法

大気汚染防止法第2条、第1項、第3号及び大気汚染防止法施行令第1条で定める有害物質(HAP)

国際規制

残留性有機汚染物質に関するストックホルム条約 該当しない

ロッテルダム条約 該当しない

16. その他の情報**作成者**

Bio-Rad Laboratories, Environmental Health and Safety

改訂日

2024-03-25

改訂記録

既存情報のフォーマット 変更・更新済。

安全データシートで使用されている略語及び頭文字のキー又は凡例

凡例 項目8: ばく 露防止及び保護措置

TWA

TWA(時間加重平均)

天井値

最大限界値

*

経皮吸収

+

感作性物質

本SDSの編集に使用した主要参考文献及びデータ源

環境有害物質・特定疾病対策庁 (ATSDR)

米国環境保護庁ChemViewデータベース

欧州化学品局

欧州食品安全機関(EFSA)

EPA (米国環境保護庁)

急性ばく 露ガイドラインレベル(AEGL)

米国環境保護庁、連邦殺虫剤、殺菌剤、殺鼠剤法

米国環境保護庁高生産量化学物質

フーリサーチジャーナル (Food Research Journal)

危険有害性物質データベース

国際統一化学情報データベース(IUCLID)

日本政府によるGHS分類

オーストラリア国家工業化学品届出審査機構(NICNAS)

NIOSH(米国労働安全衛生研究所)

米国医学図書館ChemID Plus(NLM CIP)

米国医学図書館のPubMedデータベース(NLM PubMed)

米国国家毒性プログラム(NTP)

ニュージーランド 化学物質分類・情報データベース(CCID)

経済協力開発機構、環境・健康・安全に関する文書

経済協力開発機構、高生産量化学物質点検プログラム

経済協力開発機構、スクリーニング情報データセット

世界保健機構

免責事項

このSDSは、JIS Z 7252:2019及びJIS Z 7253:2019の要件に準拠している。このSDSに記載されている内容は、発行日時点の知見、情報に基づき正確を期したものです。ここに記載されている情報は当該製品の安全な取扱い、使用、加工処理、保管、運搬、廃棄、漏えい(洩)時の処理など指針とすることのみを目的としたものであり、いかなる保証をするものではなく、また品質仕様ではありません。本文中に明記されている場合を除き、他の何らかの材料と組み合わせて使用した場合、又は何らかのプロセスに使用した場合には、有効でなくなる場合があります。

安全データシートのおわり